

札幌研修

「北海道漁業の基礎知識」椎谷泰世講師「北海道農業の基礎知識」大槻誠章講師 「クルーザー船内講師として世界一周の旅」市根井恵子講師

2019年11月4日実施 JGA 第五支部研修 終了報告

1 講目は全国通訳案内士の椎谷講師による北海道漁業の基礎知識。水産王国：北海道の年間漁獲高は約 1,140 万トンで、国内シェアは 30.6%と全国トップ。中でもホタテ（75.5%）、サケ（78.6%）は群を抜く。一方、花形であった母船式北洋漁業の撤退で、函館や釧路、根室等が衰退、近年はイカ、サンマの不漁に苦しんでいる。水産業も構造変革を余儀なくされ、沖合漁業から沿岸漁業へ、獲る漁業から育てる漁業へと転換。例えば、ホタテはほぼ 100%が養殖であり、サケも毎年 10 億匹前後の稚魚を放流している。今後の課題としては、まずは付加価値の向上。例えばコンブは全国シェア 9 割を誇るが、ダシ文化は本州で花開き、北海道は素材の供給のみに甘んじている。また温暖化により、ここ 100 年で海水温度は 1 度上昇、獲れる魚種が変化（ニシン、サンマ→ブリ、イワシ）し、加工技術や流通・販路の変革が急がれている。

2 講目は全国通訳案内士の大槻講師による北海道農業の基礎知識。日本の食糧基地である北海道、年間生産高は約 1 兆 3 千億円で全国の 14%のシェアを誇る。1 経営体当たりの耕地面積は 27.1ha で全国平均の 14 倍。地域別には道央・道南が稲作、野菜中心であるのに対し、オホーツク・十勝は畑作と酪農、釧路・根室・宗谷は圧倒的に酪農（乳牛）と明確な違いがある。



三講目は全国通訳案内士の市根井講師による世界一周ガイドのお話。市根井氏は 2019 年 4 月から約 3 ヶ月、世界一周のクルーズ船：サン・プリンセスに Destination adviser として乗務。同船は 7 万 7 千トン、2,000 人が乗船可能。24 か国、32 の港に寄港し、シアターでの寄港地の説明、現地での案内、現地案内人の通訳等に従事。寄港地の説明は、歴史的背景 30%、文化・生活様式 30%、交通手段 25%、その他 15%という内容だが、準備は大変な作業。ガイドブックには載っていない面白い話を探すことに苦勞した、とのこと。